
第2章 地域づくりの現況と今後の方向

1 リニモ沿線地域の特性

(1) 充実した広域的な交通ネットワーク ～“交通条件”の優位性～

愛・地球博の開催を契機として、鉄軌道ではリニモの開業や愛知環状鉄道の一部複線化が行われ、道路では名古屋瀬戸道路や東海環状自動車道が整備されるなど、広域的な交通ネットワークの形成・充実が進んでおり、交通利便性の高い地域である。

(2) 大都市近郊の豊かな自然環境 ～“自然環境”の優位性～

名古屋東部丘陵に位置し、名古屋市に近接した利便性の高い場所であるにもかかわらず、優良な田園地帯が広がり、その東部には海上の森を始め多くの森林が残る、豊かな自然環境に恵まれた地域である。

(3) 愛・地球博を継承する施設群と活動 ～“愛・地球博開催地”の優位性～

愛・地球博記念公園（モリコロパーク）、あいち海上の森センター、瀬戸万博記念公園（愛・パーク）が立地し、愛・地球博の理念・成果を発信する拠点として、愛知県の地域づくりにおいて重要な位置を占めている。また、愛・地球博記念公園内に整備された「地球市民交流センター」では、愛・地球博によって育まれた市民交流活動が活発に行われるなど、市民活動への意識の高い人々が集結する地域である。

(4) 大学や研究機関の高密度な集積 ～“学術研究機能集積”の優位性～

沿線には愛知県立大学、愛知県立芸術大学が立地するほか、周辺も含め多くの大学が集積している。また、試験研究機関も愛知県農業総合試験場や豊田中央研究所が立地するほか、最先端の研究開発環境を備えた「知の拠点あいち」の整備を進めており、人材育成や研究開発等の愛知の活力の維持・向上に欠くことのできない重要な役割を担っている地域である。

(5) 名古屋市東部から延びる文化・居住エリア ～“居住環境”の優位性～

名古屋都市圏の東の外縁に位置し、名古屋市東部から連なる良好な市街地を土地区画整理事業等で新たに形成してきており、全国的には人口減少の流れの中にもありながらも、この地域は子育て世代等を中心に人口が増加している。また、大学の集積、愛・地球博記念公園、愛知県陶磁美術館、トヨタ博物館、長久手古戦場公園等の多くの文化・レクリエーション施設が立地し、文教地区としてのイメージを有している。

2 これまでの取組状況

(1) 計画的な市街地整備の推進

自然環境の保全に最大限配慮し、リニモ駅を中心に概ね1km圏内で、土地区画整理事業や地区計画制度による計画的な市街地の整備に取り組んでいる。

具体的には、長久手古戦場駅周辺の長久手中央土地区画整理事業や公園西駅周辺の公園西駅周辺土地区画整理事業に着手し、宅地の整備や道路、駅前広場等の都市基盤施設の整備を進めている。

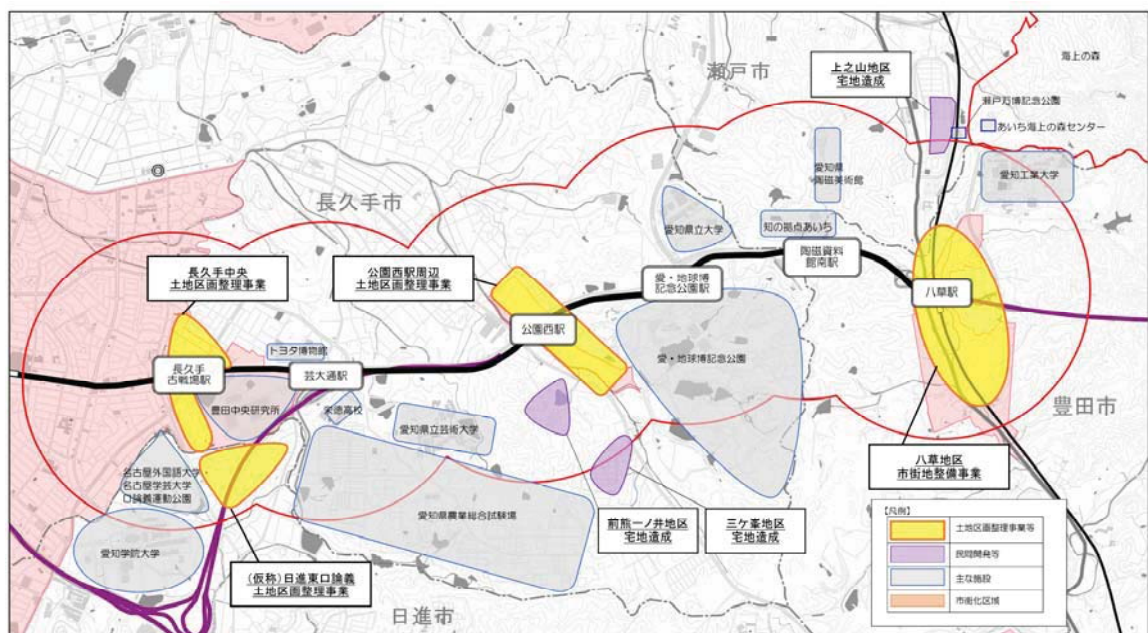
また、長久手古戦場駅と芸大通駅に近接し、日進市の「北のエントランス」として位置づける日進東口論義地区や、豊田市の八草駅周辺地区においても、市街地整備に向けた調整を行っている。

このほか、民間開発として、公園西駅周辺の三ヶ峯地区や八草駅周辺の上之山地区では宅地分譲が開始され、公園西駅周辺の前熊一ノ井地区でも宅地造成が進んでいる。

＜市街地整備の取組状況＞

		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
長久手古戦場駅	長久手中央土地区画整理事業		●事業認可、組合設立 ●イオンモール(株)の選定		●仮換地指定	●長久手中央地区計画決定		
長久手古戦場駅 芸大通駅	(仮称)日進東口論義土地区画整理事業		●世話人会結成		●仮同意書収集開始			●事業計画(案)作成
公園西駅	公園西駅周辺土地区画整理事業					●事業計画決定 ●イクア・ジャパン(株)の選定	●仮換地指定 ●公園西駅周辺地区計画決定	
	民間開発				●三ヶ峯地区計画決定 ●三ヶ峯地区分譲開始		●前熊一ノ井地区計画決定	
八草駅	八草地区市街地整備事業						●構想図作成(まちづくり推進委員会)	
	民間開発					●上之山地区計画決定	●上之山地区分譲開始	

＜市街地整備の箇所図＞



(2) 沿線施設の整備

愛・地球博記念公園では、野球場やサイクリングコース等の運動施設や1万人規模のコンサートができる野外ステージを整備したほか、博覧会の理念と成果を継承する21世紀にふさわしい都市公園として地球市民交流センターを整備し、市民活動の新たな拠点としてNPO等の活発な活動が展開されている。

また、陶磁資料館南駅に隣接する「知の拠点あいち」では、最先端の研究開発環境を備えた拠点として、「あいち産業科学技術総合センター」、「あいちシンクロトロン光センター」並びに「新エネルギー実証研究エリア」を整備し、既存産業の高度化や次世代産業の創出を図るため、産学行政が連携した共同研究開発プロジェクト等を進めている。

更に、長久手中央土地区画整理事業や公園西駅周辺土地区画整理事業において、商業街区の事業予定者として、イオンモール株式会社、イケア・ジャパン株式会社を選定し、大型商業施設の出店に向けた調整を行っている。

<沿線施設の供用開始状況>

	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
愛・地球博記念公園	●野球場 ●あいちアートスクエア	●地球市民交流センター		●サイクリングコース テニスコート フットサル場 多目的球技場	●あいちサトラボ 「農のエリア」		●野外ステージ ●公園西駅ロケット
知の拠点あいち			●あいち産業科学技術総合センター	●あいちシンクロトロン光センター			●新エネルギー実証研究エリア



愛・地球博記念公園
地球市民交流センター



愛・地球博記念公園
野外ステージ



あいちシンクロトロン光センター

(3) 公共交通ネットワークの充実

リニモ沿線には、乗合バスや沿線市のコミュニティバスが運行し、長久手古戦場駅や八草駅では、行政区域を越えたコミュニティバスの運行も行っている。

また、N-バス（長久手市）やくるりんばす（日進市）におけるバスロケーションシステム¹の導入、リニモと愛知環状鉄道の乗換利便性向上のためのダイヤ改正、愛・地球博記念公園駅や八草駅でのパーク&ライド駐車場²の設置・拡充、沿線住民や学生に対する公共交通への利用転換を促すモビリティマネジメント³の実施等、公共交通の利便性向上や利用促進に取り組んでいる。

¹ バスの運行情報を携帯電話やパソコンから確認することができるシステム

² 駅やバス停までクルマで行き、そこから公共交通に乗り換えて移動するパーク&ライドを推奨する駐車場

³ コミュニケーションにより個人や企業に交通行動を見直してもらい、自動車の効率的利用や公共交通への利用転換を促す方策

更に、交通系 IC カードの普及や IC カードシステムの相互利用が進む中、リニモにおいても 2016 年（平成 28 年）3 月に交通系 IC カード「manaca」を導入し、全ての駅において使用可能となる。



愛・地球博記念公園北パーク&ライド駐車場
（駐車可能台数：246 台）



八草駅前パーク&ライド駐車場
（駐車可能台数：170 台）

（４）多様な主体が参画する地域活性化の取組

沿線地域の活性化に向けて、沿線大学の学生や NPO と協働して沿線の歴史や文化・芸術等の資源を生かしたまちづくりの調査研究や交流イベントを開催するほか、沿線の文化・レクリエーション施設、試験研究機関等と連携したイベントを開催するなど、地域が一体となった取組を進めている。



リニモ沿線合同大学祭
リニモ沿線大学の学生が“助けを求め合えるまち”を目指して、地域住民・沿線施設・地域店舗と共に作りあげるイベント



リニモクリスマストレイン
車内をイルミネーションで装飾して運行。飾り付けや車内アナウンスを NPO と連携して実施



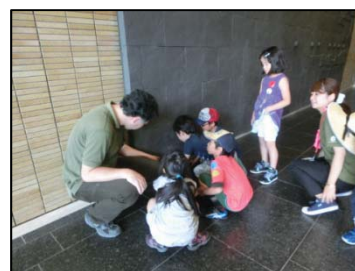
リニモでハロウィーン
NPO が企画したリニモ駅と沿線施設を巡るイベントラリー。ラリーポイントでは参加者と学生ボランティア等が交流



リニモウォーキング
沿線の自然や名所、文化、観光施設等を巡り沿線の魅力に触れるイベント。「せと・まるっとデジタルまつり」などの周辺イベントとも連携



トヨタ博物館 クラシックカー・フェスティバル
クラシックカーファン醸成を通じた自動車文化の継承、地域との連携を深めるためのイベント
写真提供：トヨタ博物館



土どろ・ウォーキング
愛知県児童総合センターと愛知県陶磁美術館が連携して実施する小・中学生を対象とした特別イベント

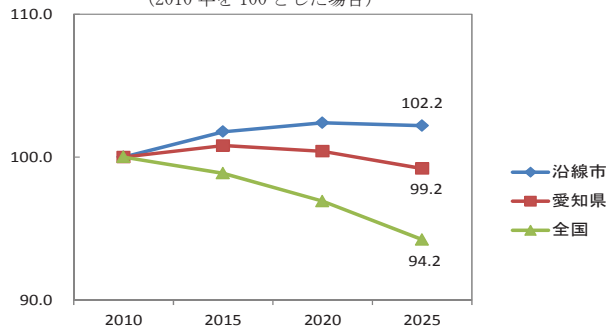
3 沿線をとりまく時代の潮流

(1) 地方創生の流れ

地方自らが地域資源を掘り起こし、活用することで、活力ある地域社会を創生し、地方への新たな人の流れを生み出す地方創生の取組が全国で進められている。地方創生では、「都市のコンパクト化と周辺等の交通ネットワーク形成」、「地方大学の活性化」、「まちづくりにおける地域連携や人材の育成・確保」、「観光業を強化する地域における連携体制の構築」等の取組が掲げられている。

リニモ沿線地域は、子育て世代を中心に、人口増加が続いているが、引き続き、充実した広域交通ネットワークや大都市近郊の地理的優位性を生かし、良好な住宅地の形成や、沿線大学やNPO等の様々な団体と連携・協働し、多様な世代のアイデアを取り入れながらまちづくりに取り組み、地域の発展を牽引していくことが重要である。

＜沿線市と全国・県の将来推計人口＞
(2010年を100とした場合)



資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2013年3月推計）」から作成

(2) リニア中央新幹線（東京－名古屋間）の事業着手

リニア中央新幹線（東京－名古屋間）が、2027年度（平成39年度）の開業に向け整備が進められている。リニア中央新幹線の開業により、首都圏との時間的な距離が飛躍的に短縮され、首都圏から中京圏に及ぶ範囲で、人口5,000万人規模の巨大なリニア大交流圏が誕生することとなる。

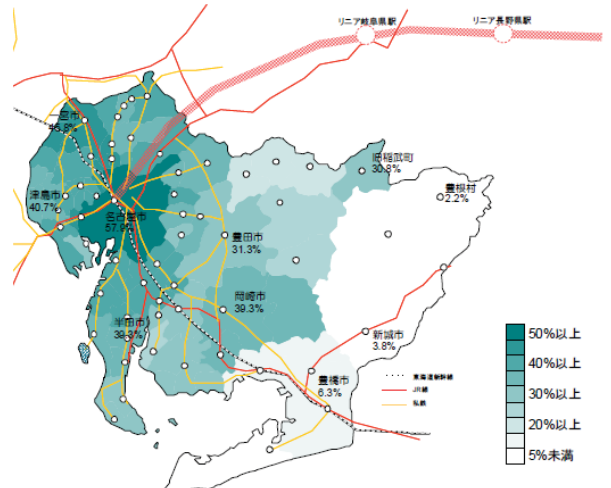
リニモ沿線においても、リニア開業のインパクトを受け止められるよう、2027年度の開業を見据え、沿線の魅力づくりに取り組んでいくことが重要である。

＜リニア開業による所要時間の変化＞
～市町村と品川駅間の所要時間の短縮率～

	現状	リニア開業		
	所要時間 (分)	最短所要時間 (分)	変化量 (分)	短縮率
名古屋市	95	40	-55	57.9%
瀬戸市	155	100	-55	35.5%
豊田市	160	110	-50	31.3%
日進市	145	90	-55	37.9%
長久手市	135	80	-55	40.7%

注：岐阜県、長野県の中継駅の利用を考慮しない場合のこと
資料：愛知県「リニア中央新幹線影響等調査（H24）」から作成

【リニア開業時（中間駅考慮なし）】注

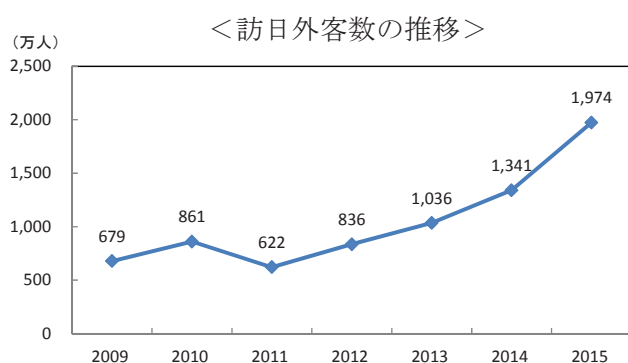


(3) 訪日外国人の増加に向けた取組

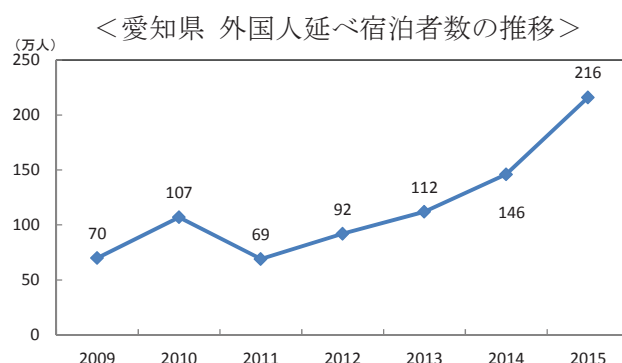
国は訪日外国人の年間 2,000 万人達成を目標に掲げ、観光立国の実現に向けた取組を進めている。そうした中、アジアからの訪日を中心に増加傾向が続き、2010 年（平成 22 年）の 861 万人から 2014 年（平成 26 年）の 1,341 万人へと 1.5 倍を超える伸びを示し、2015 年（平成 27 年）には 1,900 万人を突破して過去最高水準で推移している。

このように増加を続ける訪日外国人を確実に取り込むために、愛知県では、キャッチワードやロゴマークを活用した PR と受入体制を強化し、来県客数の増加とともに満足度、安心度の向上を図っている。また、中部圏では、2012 年（平成 24 年）3 月、自治体、観光関係団体、観光事業者等が協働して、「昇龍道プロジェクト」を立ち上げ、海外からの誘客を図っている。

リニモ沿線周辺においても、陶磁器産業や自動車産業といった「日本のモノづくり」をテーマに海外からの誘客を促進しているが、今後も、沿線の観光資源の魅力を向上させ、海外からの誘客を一層進めていくことが重要である。



資料：日本政府観光局（JNTO）「訪日外客数」
（2015 年は推計値）



資料：観光庁「宿泊旅行統計」
（2015 年は速報値）
※調査対象は、従業者数 10 人以上の宿泊施設

(4) 大規模スポーツ大会による地域振興の取組

「2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催が決定し、スポーツ大会を契機とした地域活性化の取組が注目されている。

愛知県では、2015 年（平成 27 年）4 月に「あいちスポーツコミッション」を設立し、全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致、育成を目指すとともに、スポーツ大会が持つ情報発信力や集客力を地域の活性化につなげる取組を行っている。

沿線には、愛・地球博記念公園や名古屋外国語大学・名古屋学芸大学口論義運動公園が、そして沿線周辺には豊田スタジアムやスカイホール豊田等の競技施設があり、国際的な大会から市民参加の大会まで幅広く開催されている。とりわけ、豊田スタジアムは、「ラグビーワールドカップ 2019」の会場のひとつであり、開催時には国内外から多くの観戦客が訪れることが想定される。こうしたスポーツ大会への参加者や観戦客を沿線地域に取り込んでいくことが重要である。

＜沿線及び沿線周辺の主なスポーツ施設＞

	愛・地球博記念公園	名古屋外国語大学・名古屋学芸大学 口論義運動公園
スポーツ 施設		
主な大会 実績	中部フィギュアスケート選手権大会 国際ジュニアグランプリフィギュアスケート競 技大会 愛知県市町村対抗駅伝競走大会	日本マスターズ水泳 長距離大会 クラブカップU-14 (サッカー) 全日本大学女子サッカー選手権東海地区予選
	豊田スタジアム	スカイホール豊田
スポーツ 施設		
主な大会 実績	サッカー Jリーグ FIFA クラブワールドカップ (サッカー) ラグビートップリーグ	豊田国際体操競技大会 バスケットボール女子日本リーグ ナショナルバスケットボールリーグ ワールドチャレンジテニストーナメント

4 重点プランの基本的な視点

これまで構想で掲げた将来像の実現に向けて、各駅を中心とする概ね 1km 圏内の「居住人口」の増加や、通勤・通学、沿線施設の来訪者等「交流人口」の増加に資する取組を行ってきた。

構想策定から 7 年を経て、駅周辺における計画的な市街地整備により、着実に、宅地や商業施設、公共施設の整備を進めてきており、駅周辺の新たな開発適地は少なくなっている。一方で、地方創生や訪日外国人増加等の動きがある中、新たな人の流れが注目されている。

そこで、今後 5 年間は、「居住人口」を増やすための市街地整備の推進はもとより、広域的な観光等に着目した「交流人口」の増加に資する取組に軸足を置き、「住みたくなる沿線」、「訪れたい沿線」、「住みたくなる・訪れたい沿線を支える交通基盤」をキーワードに、その重点的に取り組むべき施策を本プランでとりまとめる。

<重点プランの基本的な視点のイメージ図>

